

陸軍省 別冊 技術本部 長八通線

首題 火具 五月一日附送 技術本部 甲第二二三號 上申

通定メニルキニ付 該圖面 (概説書) 九十七部

送付セシ度

陸密第二七〇號 昭和九年五月拾五日

右圖書送付アリタル後左案決行相成度

別冊 火具 技術本部 長八通線

陸軍省 別冊 技術本部 長八通線

各師團及各隊 團車中 支那駐屯軍 長八通線

首題 九三式戰車地圖及九三式地雷信符別紙

通定メニルキニ付 該圖面 (概説書) 各 部

(夏) 初 (夏) 送貨

陸密第四〇四號

昭和九年七月十日

回面郵政

長七、長一、造敷只、村七、第一、師團同車平各二、其他各一

爆破用火藥火具戰車地雷及同地雷信管制式削除付

副官より長造敷長、技方長、初無探譯長

七三長、廠長、造敷廠長、村術本、初長

者師團及名隊軍、同車平、子部駐屯軍奉譯長、

各要塞月令、長(通車)

昭和五年二月二十五日陸密第四一一年制定、係以首

照、爆破用火藥火具ハ制式申上り、削除セラレシ

付、該回面燒却セシ、廢棄ノ命、通シ

陸密

陸技本甲第二一三號

爆破用火藥火具九三式戰車地雷及同九三式地雷信管
假制式制定並爆破用火藥火具戰車地雷及同地雷信管
制式中ヨリ削除ノ件上申

昭和九年五月一日

陸軍技術本部長 緒方

勝

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

首題九三式戰車地雷及九三式地雷信管ハ審査ノ結果實用ニ適スルモノト認ムルヲ以テ假制式トシテ制定並既制定ノ戰車地雷及地雷信管ハ左記修正表ノ通削除セラレ度左記圖書相添へ上申ス

左 記

一 爆破用火藥火具九三式戰車地雷圖

一 部 (二枚)

一 同 概説

二 部

一 同 九三式地雷信管圖

一 部

一 同 概説

二 部



一、同 兵器細目名稱表

一、陸軍假制式兵器圖（野戰彈藥）中修正表

二部

二部

爆破用火薬火具九三式戦車地雷概説

昭和九年四月
陸軍技術本部

陸軍



爆破用火藥火具九三式戰車地雷概説

第一 用途

戰車ノ軌道裝置ヲ破壞シテ其ノ進行ヲ不能ナラシムルニ用ウ

第二 構造竝機能

一、九三式戰車地雷ハ中徑一七糎高サ五糎ノ圓盤型金屬板製外被ノ内部ニ重量〇・八九〇斤ノ黄色藥ヲ裝シ之カ中央ニ一箇ノ九三式地雷信管ヲ裝置シタルモノニシテ戰車其ノ上ヲ通過スルヤ其ノ重量ニ依リ駐栓切斷セラレテ信管發火シ同時ニ黄色藥爆發スル如ク結構セラレタルモノトス

重量 一・四五〇斤

二、外被ハ蓋螺及炸藥室ヨリ成リ銅板製ニシテ内部ニ黄色藥ヲ收容シ得セシム而シテ完成結合ノ際ハねぢ部ニ黒「ワニス」ヲ塗抹シ完全ニ螺著ス

運搬及取扱中ノ安全ヲ期スル爲安全器ノ設ケアリ

外螺ノ外周對照ノ位置ニ附シアル鎖及紐ハ投擲ノ際又ハ二箇背合使

用スル場合ニ用ウ

第三 審査経過ノ概要

一 審査ノ起因

1 昭和四年六月一日陸密第一六〇號陸軍技術本部第二部管掌兵器研究方針ニ基キ戰車地雷竝地雷信管ニ就キ審査ス

2 重量ノ輕減及裝備能率ノ増大ヲ目的トシテ現制ノ改良竝急造戰車地雷ノ方式ヲ研究ス

3 現制ハ重量大ナルヲ以テ爲シ得ル限り輕量トシ且地雷ヲシテ相當正面幅ノ警戒能力ヲ附與スルコト及携行爆藥ヲ利用シ地雷急造ヲ必要トスレハナリ

依テ昭和八年四月ヨリ第二部ニ於テ之カ研究ニ着手ス

二 審査経過

1 昭和八年五月第一部ト協同シ伊良湖射場ニ於テ爆藥ヲ以テスル對戰車戰鬥ニ於ケル藥量算出竝戰車各部ノ爆藥ニ對スル抗堪力ヲ試驗セリ其ノ判決次ノ如シ

踏爆ニ依リ八九式輕戰車軌道最強部ヲ切斷ニ要スル最少藥量ハ約
〇・六七〇㊦ナリ

但シ踏爆戰車地雷ノ威力ハ藥量ヲ可及的少ナカラシムル場合炸藥
ノ形狀ニ影響スルコト極メテ大ニシテ前項ノ最少藥量ヲ以テ踏爆
ノ目的ヲ達セムニハ炸藥ノ形狀ヲ厚サ約二六㊦ナル正八角形或ハ
圓盤型ト爲スヲ適當トス

2 昭和八年六月伊良湖射場ニ於テ實施セル豫備試驗ノ結果ニ基キ藥
量並炸藥ノ形狀ヲ決定シ之ヲ銅板製ノ外被ニ收容シ信管及安全裝
置ヲ附シタルモノヲ試製注文セリ
其ノ諸元次ノ如シ

一 容積	長	一五八㊦
	幅	
	高	五五・八㊦
二 炸藥量		〇・七〇〇㊦
三 總重量		一・一五〇㊦

3 昭和八年七月試製品完成セルヲ以テ習志野演習場ニ於テ實地試驗

ヲ行フ其ノ判決次ノ如シ

試製戰車地雷ハ實用可能ナルモ尙信管ノ高サヲ努メテ低下シ爆破時ニ於ケル炸藥上面ト履帶トヲ爲シ得ル限り密著セシムル如ク改修スルヲ要ス

4 昭和八年八月前記諸點ニ關シ研究ヲ了シ試製品完成セルヲ以テ伊良湖射場ニ於テ八九式輕戰車ニ對スル實地試驗ヲ行フ其ノ判決次ノ如シ

一 試製戰車地雷ハ概ネ所期ノ性能ヲ具備セルヲ以テ一部ノ改修ヲ行フト共ニ運搬試驗ヲ實施シ可及的速ニ新戰車地雷ノ制式ヲ定ムルヲ適當ト認ム

二 現制戰車地雷ハ前項新戰車地雷制定ノ曉ニ於テハ其ノ二箇ヲ背合セニ使用スルコトニ依リ良ク之ト同等ノ威力ヲ發揮セシメ得ルヲ以テ敢テ制式存置ノ要ナキモノト認ム

5 昭和八年十月形狀（八角形、圓盤型）ノ決定並投擲法研究ノ爲歩兵學校、戶山學校及工兵學校ニ試驗委託セリ其ノ結果圓盤型ヲ可

トシ投擲使用ニ經テ附スコトニ決定ス

6 昭和八年十二月運搬試験ヲ工兵學校ニ試験委託ス其ノ判決次ノ如シ

試製戰車地雷ノ運搬ハ馱馬及自動車ニ依ルモ運搬中ノ動搖ニ依リ自爆スルコトナシ

7 昭和九年一月北滿齊々哈爾附近ニ於テ寒地試験ノ結果ニ基キ地雷信管ノ一部修正ヲ實施シ良好ナル結果ヲ得實用ニ適スルヲ確認ス依テ本地雷ハ秘密兵器トシテ制式制定方上申ヲ爲スニ至レリ

陸軍

爆破用火薬火具

九三式地雷信管概説

昭和九年四月
陸軍技術本部

陸軍



爆破用火薬火具

九三式地雷信管概説

第一 用途

九三式戦車地雷ヲ爆發セシムルヲ主目的トシテ設計審査セルモノニシテ急造地雷ノ爆發ニモ兼用シ得ル如クセルモノトス

第二 構造及機能

本信管ハ徑一八耗高サ四五耗ノ圓筒型ニシテ体、安全装置、擊發装置及傳火装置ヨリ成ル

信管体ハ黃銅製圓筒型ニシテ外部下端ニハ戦車地雷ニ裝著スヘキねぢヲ有ス

安全装置ハ安全螺ニ依リ擊針ヲ信管体ニ固定シ以テ取扱運搬間擊針ノ前進ヲ防止ス

擊發装置ハ擊針、擊針發條、駐栓ヨリ成ル

擊針ハ駐栓ニ依リ擊針發條ヲ壓縮固定ス而シテ擊針上ニ一四〇疋以上ノ重量ヲ加フルトキハ駐栓切斷ス然ルトキ擊針ハ發條ノ壓縮力ニ依リ自動的ニ前進シテ雷管ヲ衝擊發火セシム

傳火藥ハ管藥及傳火藥筒ヨリ成リ雷管ハ火燭ハ管藥ニ依リ傳火藥筒ニ點火爆發セシムルモノトス

構造右ノ如クナルヲ以テ戰車地雷ニ裝著使用シタル場合戰車ノ通過ニ方リ擊針上ニ其ノ重量加ハルヤ駐栓ノ切斷ニ依リ自動的ニ作動發火シ以テ炸藥ヲ完燃セシムルモノトス

尙本信管ニハ信管接續筒ヲ附屬ス該接續筒ハ黃銅製圓筒型ニシテ内面兩端ニねぢヲ有シ信管ヲ二箇結合スル場合ニ用ウルモノトス

第三 審査經過ノ概要

九三式地雷信管ノ審査ハ九三式戰車地雷ニ裝著シテ之ト同時ニ試験ヲ行ヒタルヲ以テ其ノ經過ハ九三式戰車地雷概説ニ記述セルモノニ同シ而シテ本信管ノ應用試験トシテ左記ノ急造地雷ヲ炸製シ昭和八年九月試製戰車地雷試験ノ際同時ニ之ヲ行ヒ其ノ結果良好ニシテ實用ニ適スルモノト判定セリ

依テ本信管ハ之ヲ秘密兵器トシテ制式圖ヲ以テ制式制定方上申セムトス

急造地雷

左記

現制爆發機ニ藥包穿孔器ヲ以テ信管孔ヲ穿テ之ニ九三式地雷信管ヲ裝着シタルモノニシテ重量物ノ類カ本地雷上ヲ通過スルヤ其ノ重量ニ依リ戰車地雷ト同様ノ作用ヲ生起スルモノナリ

陸軍

秘 陸軍省 三七八

陸技本秘甲第四四號

爆破用火藥火具九三式戰車地雷及九三式地雷信管圖
面並概説送付ノ件通牒

昭和九年七月十六日

陸軍技術本部副官 横井

陸軍省副官 牛島 滿 殿

本年五月十五日附陸密第二七〇號通牒ニ係ル首題ノ圖面並概説（圖面參枚）概説貳枚）各九拾七通送付ス

追テ現品ハ陸密番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度

陸軍省 大 臣 官 房 7.17 9

陸軍省 第 九 銃 砲 課 7.17 9

陸 軍



3.378

陸 普 別表より別紙記載表の箇所は通集

首題の細目名稱表別紙の通定メラレシ存 部

(兵部部用)送付ス

送ラ本細目名稱表一般細目名稱表に綴込ムコ
トナク別綴トセシ度

陸軍部第三三三番 西暦一九一九年六月十九日

(内各師團及各隊 同左年行ノニ作ル

細目名稱表別紙記載表に依リ右方ニ於テ七〇〇部

印刷セシ度

昭和九年六月十九日送付

山本

爆破用火薬火具細目名称表配賦表			
箇	所	部数	箇
大臣官房		二	運輸部
軍務局		三	侍從武官
整備局		二	各師團
兵器局		三	關東、臺灣軍
參謀本部		三	
教育總監部		一	
兵器本廠		三	
造兵廠		五	
技術本部		一	
			部数
			九
			一
			二
			二
			二

陸軍